

令和2年度 第2回御殿場市総合教育会議

日時

令和2年11月20日（金）午後1時30分

場所

御殿場市役所 東館201～203会議室

出席者

御殿場市長	若林 洋平	教育長	勝亦 重夫
教育委員	勝又 英和	教育委員	渡邊 直子
教育委員	杉山 ゆかり	教育委員	大西 孝明
教育委員	長田 光男		

陪席者

教育部長	田代 学	教育総務課長	鎌野 武
学校教育課長	勝俣 純	社会教育課長	山崎 和夫
学校給食課長	勝又 雅彦		
教育総務課課長補佐	滝口 有加	教育総務課主幹	川合 良伸
教育総務課副主任	森田 達也		

次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項
令和3年度教育予算及び事業について
- 5 閉会

1 開会

教育総務課長（進行）

本日はお忙しい中、総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。
定刻になりましたので、ただ今から令和2年度第2回総合教育会議を開催します。
全体進行につきましては、教育総務課の鎌野が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
開会にあたりまして、初めに御殿場市長からご挨拶をお願い申し上げます。

2 市長挨拶

市長

皆様、改めましてこんにちは。

本日は大変お忙しい中、足元の悪いなか、コロナ渦でご心配かと思いますが、教育委員の皆様におかれましてはお集まり頂きまして、ありがとうございます。

今年度第二回の総合教育会議ということですが、杉山委員と渡邊委員におかれましては初めてかと思しますので、よろしくお願いしたいと思います。

今日は予算の関係のお話になりますが、例年教育関係の予算の話だけは、私はニコニコして説明ができるというか、他市町にない特別な予算が沢山ついているので、来年度にむけても同じようにできれば良いかなと思っています。

詳細については後ほど説明があるとは思いますが、給食については、一時期、御殿場の給食はさみしいのではないかという話もあったのですが、市の支援とともに、ご家庭のご協力とご理解をいただきながら、やはり子ども達には美味しい給食を食べてもらって、元気にもりもり育ってもらうことが一番だと思います。

今年度は、予算的にコロナの影響で休校であったり、様々な団体活動において多少縮小したりとかするなど、様々な制約があった中で、それでも運動会や文化祭等も色々な形でできたということは良かったのではないかと思います。

修学旅行について、小中学校は実施したと思うのですが、残念ながら南高校は北海道が急遽取りやめとなり、非常に残念ですが、それにもめげずに、やはり子ども達が良い思い出をその学年ごと、特に六年生や中学校の三年生になると卒業もありますし、一年生は入学して間もなくという状況の中での学校生活だったと思います。

それらの経験も来年度に向けての教訓であり、また来年度に限らずこれから先の学校の在り方の検討材料になります。また授業の在り方ですとか、GIGA スクール構想の中において、万が一何かがあったときに、リモートだとか、家にいながらにしてどういものができるのかを考えていくことが大切です。

最終的には、子供達の教育の中で一番大きなことは、ふれあいの中で学ぶことというのが欠かせないなかで、どのようにやっていくべきなのかという事を含めて、委員の皆様にご教授やご意見を頂ければ有難いと思っています。

いずれにしましても、本日は予算の関係が中心となりますので、よろしくお願いしたいと思います。以上です。

教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、教育長よりご挨拶をお願い申し上げます。

3 教育長挨拶

教育長

皆さん、こんにちは。

昨日の定例教育委員会に出席いただきありがとうございます。

この会議では、これからの御殿場の教育環境の整備について、どこに重点を置くか、あるいは進め方を話し合うとても大事な場となっております。会を重ねるごとに充実したのになっておりますので、今日もよろしくお願いします。

学校の問題になりますけれども、あとひと月あまりで2学期が終了します。

今年度は小学校で新しい学習指導要領が完全実施という教育界にとっては非常に大きな節目の年だったのですが、ご存じのとおりコロナの影響が学校に大きく影響しまして、良いスタートがきれていないと、学校で計画したことが十分できていないと、そんな状況でございます。しかしながら、学校には慌てず焦らずに子ども達に向き合ってほしいということをお願いをしております。

さて社会の変化が大変激しくなっておりまして、ちょうど今ISSで野口宇宙飛行士が空を飛んでおりますが、民間のロケットを使う、こんなことは全然想像ができませんでした。身近な話でいいますと、自動車も自動運転がほぼ目の前にきている。あるいはもっと進んで空飛ぶ自動車など、加速度的に社会の変化がきていると思っております。

このような変化の激しい社会で生きていくために、知識偏重の教育、こういったものが以前はあったわけですがけれども、これも、だんだん問題を解決する学びや、あるいは答えのない課題についていろいろ考えてみる、こういった学びに徐々に教育の方はシフトしています。

このように社会も教育も変わっていますが、教育や社会の中で必ずあるものが、やはり人と人との関わりで、どんなに社会が変わっても変わらないのだろうと思います。これはコロナの今の状況を改めてみますと、人間というのは本質的に人と関わっていく生物なのだと実感いたします。

人は、人によって人となるという言葉もございますけれども、社会の基盤となっている人づくり、こういったものには人と人との関わりや、あるいはそれに伴う教育というものが必要となっていきます。

充実した教育をしていくためには様々な要因がありますがけれども、やはりいつも私が思っているのは、結局は人の部分、人に勝る資源はないと思っております。

今後、御殿場市の教育を考える中で、やはり大事にしていきたいのは人の質や量が学校の現場には必要であるという強い思いがございますので、そのところもまた考えていただきたいと思います。

結びになりますが、次年度の教育予算あるいは教育行政の方向など、それぞれの立場で教育委員さんのお考えを聞いていただく大切な場となりますので、今日はよろしくお願いします。

4 協議事項

令和3年度教育予算及び事業について

教育総務課長

教育長ありがとうございました。

早速であります、議事に移りたいと思います。

本日の協議件目でございますが、令和3年度教育予算及び事業でございます。

今回御協議頂く事案の資料は、事前に予算に関する資料を配布してございます。

委員の皆様におかれましては、資料に留まることなく、広く教育につきまして皆様の自由な意見を頂ければと思います。

それでは、これからの議事進行につきましては、若林市長にお願いいたします。よろしく申し上げます。

市長

私の方で進行させていただきますが、内容に入る前に、教育委員会、教育長、各課長もいらっしゃるの、改めて各学校からお願いしていただきたい重要なお願いがあります。

コロナ対応の徹底で、各学校、もちろん父兄の皆さんに、例えば感染等の疑いがある家族がいる場合には、率先して学校を休むということにはなっていると思うのですが、ここ2・3日、これは御殿場に限ったことではありませんが、どうしても人の動きが活発になれば感染というのは出てきてしまう、単発で出ている分は特に問題はないというか、出ないに越したことはないのですが、一番まずいのは、子どもが媒体になってしまうことです。

小さいお子さんとか小学生ぐらい、あるいは中学生ですと症状が出ない可能性が高いので、症状が出ないがゆえに媒体になってしまうと大変なことになりますので、改めて子ども達にはまずマスクや手洗いの徹底、先生方には換気を、これはずっと開けておく必要はないと思いますが、例えば御殿場小学校のように空間が全部教室でふさがっているようなところは、幸いにそんなに窓を開ける必要はないと思いますので、そのへんも学校によって色々対応は違うと思いますけれども、もう一回よく見直した中でその点をお願いしたいです。

子ども達については極力大声で騒がないとか、子ども達ですから何か楽しいことが

あったら騒いでしまうことがあるのでしょうけれども、少なくともマスクをしないで騒ぐというのはいり得ないと思いますので、そのへんは徹底した指導をお願いしたいと思います。

最後に一番重要なところは先ほども申し上げたように、家族に疑いがある場合に例えばコロナ PCR 検査をするなんてことになれば当たり前のことなのですが、そうでなくても発熱やご家族が不安な場合には率先して子ども達を休ませていただきたい。

先生におかれましては、それに対して咎めるということもないと思いますが、そこは気持ちよく休ませるということも大事だと思います。

11 月以降は他の感染症もどうしても流行する時期になりますので、そういった意味においてインフルエンザも含めて重視していかなくてははいけません。特に子供達が媒体になって祖父母が重症化したら大変なことになりますので、コロナだけではなく、インフルエンザも含めて感染症全般に学校として今一度注意喚起していただき、ご父兄の皆様にも再度お伝えいただければ有難いと思います。

それでは、議事に入ります。

今年度から来年度にかけて GIGA スクール構想による一人一台端末が実現し、タブレットで授業をするというのが、もう少し先の話かと思っていましたが、国も今回のコロナを受けて半ば強制的に実現に舵を切ったわけです。

この機会を逃すと整備が難しくなるので、逆に半ば強制的にやってくれた方が進むというのもあって、我々としまでも非常に厳しい状況ではあったのですが、そこはやっていこうということになりました。

いつも申し上げておりますとおり、教育にはパソコンばかりではなく人の力が必要という中で、特に先生方の力が必要です。発達障害のお子さんなどに関しましては、引き続き手厚くやっていきたいと思っておりますので、そのへんを加味したうえでご質問等ご意見をいただければ有難いと思っています。

大西委員からお願いします。

大西委員

よろしくお願いします。

地域づくりという点で、やはり地域の安全・安心等との住みよいまちづくりをしていくというのが必要であると思っておりますが、防災に関してはこれに入っていないことが気になります。

文面だけだと、この中には防災が入ってなくて、やはり今後高齢化がますます進む中で情報の発信ということについては非常に充実感があると思うのですが、様々なアプリの導入や防災についての情報発信というのはパソコンとかスマホ、タブレット

等は、非常に情報発信ツールとしては便利ですが、高齢者の家庭には、まだ準備されていないところも結構あります。

例えば公園で遊んでいる子供達について、遊んでいる時間帯に何か災害があったときに、スマホ・アプリを見てくださいというのは子供達には当然無理でしょうし、高齢者の方もスマホとかを常に携帯しているわけではありません。

そういったことから、伝達手段として公園とか公民館とかコミセン、集会場等にスピーカーの設置が必要ではないかと思います。

直接耳で聞く設備というのは、現時点で整っていない面が結構あるのではないかと思いますので、補助金を交付して頂きたい。特に地震とか大雪や台風は、昼夜問わず発生します。

以前の話で、ライフラインが停止したときに、トランシーバーを持って対応すれば良いのではないとか様々な話があったわけですが、そういうものを持っていないければどうするか等々があって、やはり街づくりの中に防災は絶対必要ではないでしょうか。ついては、スピーカー設置の補助金というのを入れていただきたい。

市長

ありがとうございます。学校滞在時はもちろん先生の誘導になると思いますが、問題は子ども達がどこかで遊ぶなど、土日も含めて子ども同士のとときにどう対応するかということに重きをおいて、同報無線やら何やらあるけれども公園にいたら何も聞こえないじゃないかということだと思いますが、そのへんはどうなのでしょう。

私から答えられるところだけ答えると、教育委員会というよりは、全体的に危機管理課のほうに最終的には話を伝えようと思っていますが、現状いかなものかということ。これは答えるひとが難しい。

教育長

防災につきましては、教育の関係で申しますと、子ども達の防災意識を育てる取り組みをしております。中学生ではジュニア防災士という取り組みを学校ではしております。

市長

教育長がおっしゃったとおりなのですが、付け加えますと、防災については当然学校教育において、教育委員会の皆さんと関わる場面においては見えてない予算や、全体的な予算も多くあります。

おっしゃられた神山二区については、危機管理課と相談してみたいと思います。子

ども達だけで普段の生活の中で外にいる場合に、同報無線が聞けないということだと理解しましたが、その辺りは確かにあると思うので持ち帰らせていただきたいと思います。

続きまして、渡邊委員お願いします。

渡邊委員

デビューということでよろしくお願いいたします。

現在、ボランティアでブックスタートに当初から携わっておりまして、立ち上げから関わらせて頂いています。

学校でこれから必要なことを沢山やっていただく中で、入学前に、それらをちゃんと受け入れるだけの段階まで子ども達が育っているのかなということを考えたときに、スマホの害について言及している方がおります。

2007年に出版された精神科ドクターの杉山登志郎さんの著書『子ども虐待という第四の発達障害』という本があります。それによると、虐待を受けていると脳が委縮してしまい、発達障害と重なる症状が出るということをいわれておりまして、それ以外にも、小児科のドクターや教育学者など、様々な方がそれぞれの立場で危惧し、警鐘をならしているという本に書かれています。

スマホ育児とまでいなくても、スマホを見ている間は、小さなお子さんがママの方を見ても振り向いてもらえないなど、意図しない無視、意図しないネグレクトが多く発生しているというデータがあります。

スマホを見て子どもが話しかけて、スマホ中はスマホに集中しているので「なにやってんの」「なんでそんな」と怒鳴ったりする。その繰り返しの中で子供の脳の萎縮が始まるという研究がなされています。

それを改善するために先ほど市長や教育長からもお話がありましたように、人との関りがとにかく大事であるということがいわれています。特に乳幼児期の関わり、たくさんの言葉の関わり、小児科に行きますと子どもに言葉かけをしましょうとポスターになっていたりしますが、子どもとの関わりが難しい保護者もいる中で、出てくるのがやはり絵本なのです。

絵本を通じてたくさんの言葉の関わり、たくさんの言葉の関わりがあると、まず心が安定する、それ以外に数学的なものや様々な能力が高まる、情緒が安定する、想像力がつくなど、人が人として生きていく様々な非認知能力が高まると盛んに言われています。

御殿場市には感謝しておりますが、ブックスタートを2004年から継続して現在もやっています。

現在、6か月検診でブックスタートを行っています。そのときに2番目3番目のお子さんがある場合、上のお兄ちゃんお姉ちゃんは1歳2歳になります。

話を聞いてみると図書館は行ってないよとか、子どももスマホをいじっていますなどの返事があったりします。

育児休暇があるなかでも、なかなか子どもと関わる時間が少ない方がいるので、市をあげて読書、乳幼児の言葉の関わりを増やしてほしいと思います。

当初 2004 年にブックスタートが始まった頃にはお子さんが多く、900 人以上いましたが、2 冊の絵本を提供していました。

子どもの数が減少したにもかかわらず本も 1 冊になり、厳しい予算の中で、それでも継続していただいていることには感謝しておりますが、もしできればその一年後くらいにセカンドブック、もう一度私たちと触れあって絵本の紹介とこんなに大切なものなのですよと紹介できたらいいなと思います。

また、楽しい子育て教室も 3 歳児のお子さんが対象だが、3 歳という働いているママがとて多いと感じております。いやだもんが出るのが今は早く 1 歳半くらいから始まってしまって、ママ達がとっても困り、子どもにテレビを見せたりビデオを見せたりということが増えています。

その影響で将来的にマイナスの要因になることが多いので、楽しい子育て教室には 3 歳児、もう少し早い赤ちゃんセミナーの次のママたちの学びの場があるといいなと思います。

心あるママたちが知らないだけかもしれないかもしれませんが、子どものことをとても大切にしているママがほとんどなので、ただ情報として知らないのかもしれない。

私たちも伝えますが、2 回 3 回と繰り返されながら、小学校に良い習慣を持った状態で、いってみれば器の底辺が広い状態で入学して頂きたいと思います。

社会性であったり学習であったり、様々なことを学べるような良い状態に育ってほしいと願っております。

市長

ありがとうございました。

一年生になるときに、まずは子ども達が安心して不安のない、もちろん様々な不安はあると思いますが、基本的に集団生活に入っていく中において、幼稚園・保育園とも大事なところですし、またそういうところで学んでいることも多いと思うのですが、今おっしゃられたような、本との関わりというのはかなり重要なので、ブックスタートは効果が出ていることは間違いないと思います。

子供の数が減ってしまっているのは悲しいですが、今は出生率が上がっているので、何とか出生率の高い間に全体的に数字が戻るようにというのが大事だと思うのですが、特にお母さんが子育てをしていく中でいい意味で本を利用しながら、ひとり遊びでもるし、ひとりで学ぶこともできるし、お父さんお母さんと一緒に読んで愛情を味わう

という事もできます。

二冊目から三冊目以降は自分で買ってもらえればいいと思うのですが、二冊目くらいまでは少し考えてみても良いのかなとは思いますが。

ただ、本当は市がどうこうではないと思います。例えば、一冊目はお父さんからのプレゼント、二冊目はお母さんからのプレゼント、もしおじいちゃんおばあちゃんがいるのであれば二冊目はおじいちゃんから三冊目はおばあちゃんからプレゼントし、それを一緒に読むという手もあると思います。

だから逆に何でもかんでもこちらから与えてしまうと「何かもらえるから」というのも寂しいかなというのもあるので、その辺は考え方も色々あると思いますが、お金が惜しいのではなくて、じゃあ三冊目はどうなのかって話になりかねないので、そこはまた相談したいなと思います。

ただ、あと場所ですね。ふじざくらとかいろんな場所での読み聞かせもそうですし、また小さなご相談的なことも、やっぱりあそこにお母さんと子ども達がいる、お母さんが読み聞かせてあげている姿、みせてあげている姿っていうのは素晴らしいことですよね。

そのような、遊びながら小さいお子さんも利用できるサロンのような場所が今度駅前にもできますので、そういった場所を活用していくのは大事だとは思いますが。公民館も本当は使えるのですが。

ただ、それをお父さんお母さんに教えてあげられる機会が必要だとは思いますが、そのような団体も市には結構あるので、そのような団体に読み聞かせるところをもっと活用してもらおうとか、ブックスタートにも活用してもらおうような宣伝をしていくのも一つの方法かと思います。もちろん市も協力します。

とにかく本がもつパワー、特に絵本がもつパワー、お子さんが生まれる親の話ではないのですが、私も最初に読んだ絵本は覚えています。さすがに二歳のころの記憶はありませんが、どこかにその温もりは覚えているのではないかなと。そういったことはすごく大事だと思います。

渡邊委員

楽しい子育て教室について、三歳は残してほしいのですが、もう少し前のやだもん期、幼児や乳児のいやだいやだ期、そういった反抗期が昔よりも早くなっているように感じます。そのような状況を考えると、ママたちが困っている時期は三歳よりもっと早い時期だと思います。

子どもが良い状態で成長するための素晴らしいものがせっかく沢山あるのに、ママ達は、こんなこと知りたいあんなこと知りたい、困っている、どうしよう、もうわからないから、テレビ見せちゃおうとかゲームやらせてればお利口さんにしているから、

といったように、知らないがためにそうされている方が多い気がします。

それと、赤ちゃんセミナー後にママ達がお勉強できる場というのは市内にはあまり無いように思うので、そのような場も考えて頂けたら有難いかなと。例えばネットとか育児雑誌に掲載するのではなく、パパやママに色々ことを教えて差し上げるという場があればいいなと思ってお話させていただきました。

社会教育課長

楽しい子育て教室に関しては、社会教育課が年に十数回行っています。

事業の実施目的としまして、幼稚園は三歳からなので、幼稚園に入る前の二歳児のお母さん方みなさんが仲良くなり、子育て上の心配なことを話し合う場を設けるために実施しているものです。

子育て教室では、子育てボランティアの方には読み聞かせのお話をしていただいたり、講師の先生のお話を聞いたり、運動会を行ったりするなど、家庭教育学級に近いようなことも行っています。

人数的には30名くらいを毎年募集しています。

今のところ、募集人数に対して応募も拮抗しているので適当な人数であると考えていますが、本日お伺いした内容に関してましては検討していきたいと考えています。

市長

委員のご意見は、三歳は残したうえで、それ以下の年齢の子を持つ保護者に対しても考えてほしいよということですね。

何でもかんでも行政でとなると、いくら手があっても足りないものですから、もちろん図書館ボランティアの皆さんにもそうですし、ママ友グループで結構実施しているものが沢山あるので、そういったお力も借りながらやっていくというのもひとつ大事かなと思います。ただ、例えば梓を市の方で準備してあげるとか、そういうことであれば良いのではないかなと思います。

それと、大事な点としまして、駅前にそういった場を提供できる施設ができるのに加えて、図書館を新しくすることを考えています。まだ正式に発表という段階ではありませんが、図書館が今よりも広げられないというのがひとつ課題としてあるのですが、駐車場なども含めて、大事なのは使える施設を共有した方が行政施設としての利便性や効率が良いという事です。特に公共交通や今後のことを考えると、そういったものは一か所に集めた方が効率的というか効果が出やすいと思います。

できるだけ図書館も利用してほしいし、ふじざくも活用してほしいのですが、図書館に行かれる方はだいたい決まっているように思います。本当は全ての市民の方に

一度利用して頂きたいし、活用して頂きたいと考えているのですが、移転するときに一番のチャンスで、何かの用事があったときについでに寄れる距離というのはすごく大事ですし、また、イベントがある、保育施設もあるとか、そういった人が集まりやすい場所にあれば良いのかなと思います。

バスなどの公共交通のこともすごく重要で、今後はそういったこともしっかり考えていかなければいけない。そういう意味において、図書館が新しくなった際は、今のような教室だけではなく、お父さんお母さんの情報共有の場、そういったこともできていければ良いのかなと思います。施設の共有というか総括用というのも大事かなというように思っております。

あとGIGAスクール構想への対応について、実は今の子ども達はICT機器が活用できる環境さえあれば、おそらく100%対応できると思います。我々が思っている以上の吸収の早さと想像力の早さで、大人の方が追いつきません。

ただ、気を付けなければいけないのは、ご家庭にそういうものが無い家庭ですよね。当然小学一年生になって初めて触れる子もいるでしょうから、そこで差がつかないように、当然学校の方で配慮していただきやっていくということだと思います。

あるご家庭においては、逆に渡邊委員が心配するように、親が使いすぎて子どもを見ないという、意図しない無視、または意図しないネグレクト、こういったことが行われるのが心配ということですよ。

新たなICT環境に対応できない子どもは多分いないと思いますが、発達障害といったことになれば話は別だと思います。いずれにしても関わりを持つということはすごく大事なことです。そういった意味では、当市では他市にいない臨床心理士がいるので、そのような子どもに対しても、専門的な関わりを持ってあげることができる点はすごく大事なことです。

臨床心理士が切れ目なく状況把握をしているので、発達障害と決めつけずに、発達障害の傾向にある子が発達障害から抜けられる子もいるし、その辺は臨機応変に行っていくことが大事なことです。

それと、教育長からも言及があるかと思いますが、学校の一年生の教員というのは、おそらくその辺りの気を使って配置しているはずですので。

教育長

渡邊委員がおっしゃられました乳児期の大切さは、本当に実感をしておりまして、愛着障害という言葉もあるのですが、親がなかなか関わらないということがありますので、当然ながら行政も、地域の中でそういった家庭をどのように見つけていくのか、様々な取り組みのなかで関わっていくことが大事だと思いますので、大事な乳児期において、すくすくと育てられるよう支援していきたいと思っております。

事業一覧について、一年間の教育や予算を含めて、この資料に関しては、特に申し上げることはありません。ただ、細部につきましては渡邊委員と意識を合わせていきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。

最初に小中学校の改築事業について、現在も朝日小、南中で改修が行われています。

少し前までは西中で改修が行われていました。エアコンについては、御殿場市は全小中学校にも配備されております。

若林市長の教育に対する想いが様々な形で施設等に反映されておりまして、財産区恩恵という側面もあると思いますが、大変充実しているなと思います。子ども達は良い環境で安心安全で学んでおりますので、大変有難いなと思っております。

二つ目は、先ほど話題に上がりました、特別支援・発達障害の事業についてですが、障害の程度の把握や、それに対する教育のシステムと教員の指導力、教育の専門性の担保は不可欠あり、必要であると思います。

個別の支援を必要とする子ども達に対して、担当教職員の人数も増やしていかなければならない現状ですが、併せて支援員を増員しなければ細かな支援や指導ができるとは思えませんので、今後を見通して対応をよろしくお願いしたいと思います。

昨日も教育委員会で議題となっておりますが、来年度から公立小学校に自閉症の支援学級を新設する予定で、まずは指導教室が御殿場小学校と御殿場中学校に設置される予定になっております。その辺りは、変わらぬ支援をよろしくお願いしたいと思います。

不登校についてですが、御殿場市においても不登校の小中学生が増えていると聞いております。ある調査によりますと、不登校の一番の原因は本人の不安と熱量で、二番目に親子の関り、三番目がいじめを除いた友人関係だといわれております。

いじめによる不登校は少なく、いじめ以外の原因による友人関係との理由が圧倒的に多い現状と聞いております。そのような理由で不登校になる子は、傷つきやすく、本当に心の柔らかい子ではないかと思います。そのような子は、学校のような集団ではハイリスクだと思いますが、そういう子が社会に出ると非常に強い人間になっていくのではないかなと思っております。

こういう子たちに、一人一人丁寧に時間をかけて寄り添っていかなければいけないというのは間違いないと思いますけれども、ご承知のとおり多忙化している学校で先生方が対応するには、やはり難しいかなと感じております。

悩みを抱えた子ども達や保護者からの相談対応は、配置されている相談員・福祉ソーシャルワーカー・教育相談員の方たちが受け持って支援していますが、不登校から結果として回復していくためにも、学校関係者や家庭、支援において関係機関に情報を共有し、個々の児童生徒に対してきめ細かい支援策を作成できる事業として、更な

る支援をお願いしたいと思います。

最後に先ほどから話題に出ておりますGIGAスクールの関係ですが、一人一台の端末の整備について、御殿場市は交付税不交付団体ということもあり、これまでは、早急な配備は難しいと聞いておりましたが、市長さんの積極的な想いや財産区の皆様のご理解により9月の補正予算で6億1千万円の予算を計上していただきました。

今年度内に小中学校の児童生徒に一人一台のタブレット端末が配備されるということになりましたことを本当に心より感謝を申し上げたいと思います。

今日昼の静岡のニュースで放送されましたが、子ども達の検温をスマホなどで学校に報告するということが始まっていると聞きました。政府もデジタル化時代に向けて政策の見直しを計画しております。

文科省は学校保護者間における連絡手段のデジタル化を進めることが、迅速な情報共有には必要と考えており、学校と保護者間双方で学校と保護者がデジタルで連絡を取り合うことをできる機能を活用する提案をしております。

アンケートフォーム等を活用し、URLとかQRコードを添付して回答を集計するような方法をとるようなこと見たことがあります。学校側は印刷物の配布が軽減され手間や経済性が向上し、保護者側もスマートホンでいつでもどこでも様々な情報を閲覧でき、双方で利便性が向上するということで、そのような形で進んでいるということ聞いております。

そのような状況下にあって、ICTの支援員の配置に関して、当然今後予定されているデジタル化に関しましてICT教育のサポートのみならず、利便性の向上に関しても多忙な教職員に代わって手厚いサポートが必要だと思いますので、益々充実した支援をお願いしますということで終わりにさせて頂きたいと思います。

市長

ありがとうございました。学校整備事業やGIGAスクールなどのコンピューター整備事業については、正直、財産区のお陰様であり、財産区の支援がなければかなり厳しかったというのは事実としてあります。ただ、富士岡に財産区がないわけですが、財産区の支援があるおかげで、市費を富士岡に使うことができております。

静岡県内の中で、どの小中学校も校舎から何から全て突出して御殿場がNO.1だと自負しております。それについては、演習場がある関係で結果的に財産区に金銭的なご協力ご理解を頂いているわけですが、市民の皆様のご理解があつてのものです。

演習場の代償として財産区に入っているお金を、各地区からの協力として頂けていることは本当に有難いと思います。

一方で、御殿場市は交付税不交付団体で交付税を受けていません。他市町が受けている支援がない点は厳しいのですが、今回コロナの影響に関して、国の支援と財産区

の支援を受けることができたのは良かったと思っています。

これについては、当然今後とも財産区と良好な関係の中で必要なことにご協力いただくというのは大事なことだと思っています。

人員配置については、本当は胸をはりたい。ただ、現場で足りないと感じているとすると、足りないことについてはしっかりと検証したうえで補っていく必要があると思います。

こうして過去より教育委員の皆さんの良いプレッシャーの中で私がうなずいてしまうという良い歴史があったので今の人員配置につながっています。これは正直に言うと父兄や市民全員に知っていただきたい。これだけ基準以上の人員を配置している市町はないと思いますので、そういうところを分かってもらいたいと思います。

ただ、まずは、よそではありえない程充実している状況を市民の皆様にも折に触れて伝えているのですが、なかなかご認識いただけない状況があるので、その辺りを教育委員会からお伝えいただければ有難いなと思っています。

また、今後、特別支援学級を必要とする子どもに関しまして、どうしても効率的な側面も考慮しなければというのもあります。個別対応では何人いても足りないおそれがありますので、その点をご理解いただいた中でやっていくことも必要かなと思っています。

発達障害については、臨床心理士が配置され、発達支援センター設置されたことは大きなメリットがあると思いますし、また昨年より民間の病院の協力を得ているのは、他の市町にはない体制が構築されていると思いますので、引き続きしっかりと幅を広げてやっていきたいと思っています。

不登校については、これは非常に難しい問題ですが、私が思うのは、休んでも良いとの雰囲気だと思います。我々が子どもの頃は、理由がないと休めないとの雰囲気であって、何でもないので休むのは、まず親に怒られる、学校の先生に怒られる、友達にはお前何やっているのだって怒られる、そのような雰囲気だったと思います。

そういった雰囲気について考えていくべきだと思います。学校を休むのに、行かなくても良いとの感覚が多々見受けられますので、かといって叱るわけにはいけないので、そこはやはり難しいところだと思います。じゃあ無気力かということ、そうでもなく、やる時にはやるとかありますので。

実は最近、研修会のときに講師をお呼びして不登校の話をしていただいたのですが、やはり不登校には理由があるのですね。寂しさだったり、何となく行きたくなかったりであったりとか、必ず理由やきっかけがある。

では、そのきっかけが何かというと、様々な要因があると思うので、一概に言えないので、不登校の問題だけは簡単ではないなと思います。

寄り添うべき場面もあれば、寄り添わない方が良い場面もあったりしますが、ただ、カウンセリングも含めて様々なアプローチをしてくれる先生がいるので、多角的な側

面から対応していくのは大事なと思います。

最終的にはやはり親御さんや学校の先生の影響が大きいので、押し付けるという意味ではなく、本当に頼りになるという意味で、学校の先生は本当に大事だと思います。

我々の時代は怒られたくないから逃げ回るだとか、何とかごまかしてうまいことバレないように怒られないようにというのが、どちらかという学校先生に対する、特に男の子なんかはそうだったと思いますし、女の子でも要領の良い子は学校の先生に気に入られてでも仲間には嫌われているとか、そういったこともあったとは思いますが、いずれにしても学校の行事も大事でしょうし、また得意なことを褒めてあげるってというのはすごく大事だと思います。

それは親もそうですし、おじいちゃんおばあちゃんもそうだと思います。逃げ道がなくなってしまったときに、不安や無気力、また、よく言われる中二病なんかは自分を神様のように強いと思っていたのに、何もできなくてそれに気づくと何となく無気力、無力さを感じて逆に不安になるなど、実際にどうしたら良いのだろうみたいな思いを抱くと思います。

でも、その本人が思っている何かっていうものを引き出してあげる、それは親でありおじいちゃんおばあちゃんであるかもしれないですが、親や学校の先生、社会総がかりで対応していくことが必要なのかなと思います。

本当に難しいですね不登校。その数を減らすことが大事だと私も思います。

いずれにしても、人員配置は足りないところがあってはならないと思っておりますが、放課後児童教室を考えたときに、要望全てに対応すると、他の問題として、本来は親子で一緒にいるべき時間を、親が自分の時間を作るために預けているといったことを耳にするので、そういったことがないように需要と供給のバランスをみてやっていきたいと思います。以上でございます。教育長、何かあれば。

教育長

人員配置の関係ですが、資料をみるとわかりますが、多岐にわたって人員を配置してもらっています。私も現場の人間でしたので、現場では要望が色々ありますけれども、教育委員会の立場になってみると、こんな厳しい予算の中で本当に学校のことを考えて配置してくれているなということが改めてわかります。

例えば、次年度は、コロナの関係で財政は非常に厳しくなります。しかしながら、人というのは非常に大事な要素になりますので、その点については何とか現状を維持したいなと思っております。

それと、不登校の話題が出ましたが、これは全国的な大きな課題になっておりまして、数字の上で明らかなことは、小学校を卒業して中学校に入学する中一になるときに大幅に増えます。

その次が、中一から中二にあがる時期、その二段階が非常に大きな段階になっております。子どもの発達から考えますと、当然小学校から中学校に上がるというのは気持ちが変わってきます。より繊細になったり、様々なことに敏感になったりとか、そういった年代になってきますので、精神的なものが非常に大きな影響があるのかなと考えております。

御殿場市では、小学校から中学校にあがるときに、その接続の部分を大事にして、小学校から中学校の生活に円滑に繋げていくことに取り組んでおります。

不登校の子ども、将来的に普通に社会で生活ができることを学校では願っておりますので、焦ることなく、その子のことを考えながら、どんな方法でその子と接していくかを考えていくことが大事かなと思います。

解決が難しい問題ですが、そのように取り組んでいけたらと思っております。

市長

ありがとうございます。勝又委員お願いします。

勝又委員

よろしくお願いします。

今回のこの協議事項ですけれども、教育予算と教育事業ということで、私としては、今までの総合会議の中で一番難しい議題かなと感じました。

資料では18ページに渡り事業が記載されております。比べるわけではありませんが、他市町と比べましても、御殿場市では大変大きな教育予算をとっていただいております。市長をはじめこの御殿場市として教育に力を入れていただいている点に本当に感謝申し上げます。

ここ数年の教育を取り巻く環境の中で、本当に目まぐるしく変わったのがICTの関係かなと感じました。

数年前は電子黒板をどうするといった協議を、教育委員会の中でもやっておりました。電子黒板にあわせてノートパソコンなどを考えていくようなICTの環境であったのが、いつの間にか一人一台のタブレットだと。その当時からすると本当に考えられないような展開になっております。

現状は機器を支給し、学校備品の形で整備されておりますが、今後は、予想ですがタブレットが文房具になる、ひとり一台これは必ず買う、そして小学校入学の時にはタブレットがあるのでランドセルはいらない時代が来るかもしれません。

教科書はタブレットで見るので、全部電子教科書の時代がこないとも限らない。

このようにICTは何が起きてもおかしくないと感じております。

また、教育費に係る事業を見るに、固定的・継続的に要する事業費と、突発的な事業に分かれてくると思います。

固定的なものでは、最初に頭に浮かぶのが施設に関することですが、御殿場市の学校関係では、約90棟の建物があります。

本当に有難い話ですけれども、御殿場市は一番に耐震診断、耐震補強が終わっております。ですから、安心・安全に子ども達が教育を受ける環境をいち早く市で整えていただいて本当に感謝しております。

ただし、この90棟の中で築40年以上経っている建物が9棟。さらにもう少し下に下げまして30年以上の建築物といたすと9棟除いて更に43棟あります。

そうすると、30年以上の建物というのがもう50棟以上あるわけです。これらは今後の維持管理をしていくうえで当然お金もかかりますし、何年かすれば改修または改築を順繰りにしなければならない問題があります。

この辺りは施設のご担当で、しっかりと計画をして進めて頂いているので回っていると理解しておりますが、これは学校がある限り未来永劫続いていく問題で、固定的・継続的な予算が必要ではないかなと思います。

それからもう一つ、ここ数年の流れからみますと、やはり特別支援学級の生徒が増加している数字が出ております。そういった生徒が増加すると、予算も毎年毎年増えていくことになるのではないかと思います。その反面、突発的な事業や特殊な事業については、当然次年度はないわけで、そのような減少する事業も含まれておりますので、限りがある予算の中でバランスをみながら、最善の事業を行って頂いていると理解をしております。

それともうひとつ、教育ばかりではなく文化的な側面では、後世に誇れるような御殿場市の図書館ができます。当然限られた予算のなかで難しいとは思いますが、そういった施設を集中させて文化ゾーンを大々的に結成し、将来的には御殿場市に博物館ですとか美術館といった、後世に誇れる施設を創り、文化都市であると胸を張って後の子孫に受け継いでいけるような、御殿場市の核となるものをつくって頂きたいと思っています。

ただ、それにはどうしても予算がかかります。当然限られた範囲の中で、現状でも厳しい予算のなかで、なかなかそこまでの余裕は生まれにくいとは思いますが、市議会、財産区、各法人を含む皆様に、今後の御殿場市の文化レベルの底上げについてのご理解を頂いて、是非、後世に残る御殿場、文化都市としての御殿場といったものを残していきたいと考えます。

市長

詳細までご確認頂き本当にありがとうございます。

耐震補強について、普段使う校舎については優先的に整備しようという事で、積極的に前倒して整備した経緯はあります。それとは別に、長寿命化計画がどうしても必要で、直せるものは直す、補強できるものは補強して、少しでも長く施設を利用しようという点と、新たには建物を建てないという点が必要で、そういうことをしっかりやっております。

また、委員がおっしゃられたとおりで、文化ゾーンというのは非常に良いことだなと思いますし、図書館に併設して資料館ができますので、御殿場市で博物館というのはなかなか難しいかなとは思いますが、そう施設が許される時代が来れば、それは進めていくべきことでしょうし、国や県がそういうものを作りたいとなれば、富士山の麓という環境を活かしてチャンスを逃すことなくやっていくことが重要かなと思っております。

富士山の麓の文化芸術を考えると、富士山は世界文化遺産であること踏まえた上で、この環境を守ることが実は一番大事なことであって、教育委員会の皆様におかれましても、子ども達の実感できる、子ども達が胸を張れる、最終的には大人たちも胸を張れる、そういった環境づくりが本当に大事だと思いますので、子ども達がそのような環境の中で学べる学び舎であるということを、ぜひ推奨していただきたいと思います。

I C Tについては、流れに逆らうことはできないので、しっかりとその時代に沿ってやっていきたいなと思います。

それと、美術館は予定というか、大きなものではないのですが、文化芸術に関してせっかく秩父宮記念公園がありますので、その敷地を整備していく上で、美術館の可能性もありますので、楽しみにしていただけたらなと思います。

教育長

先程委員からお話がありましたI C Tの関係ですが、今の子どもは使い方に困りませんので。いわゆるタブレットや携帯とかですね。

そのような機器があたりまえにある場で生活をしているので、本当にひとつの文房具のようにタブレットを使っていこうと考えております。

今後は、タブレットを授業でどのように活用するか、より効果的に活用するか、そのような点が学校の中の重点になっていくかと思います。

それに加えて、文房具ですから当然いつでもどこでも使えるというような側面も備えておりますので、例えば家庭学習など可能であれば、幅を広げていきたいということを構想しております。

市長

ありがとうございました。それでは杉山委員、よろしくお願いいたします。

初めての参加の総合教育会議ということで改めましてよろしくお願いします。

はじめに、今回初めて教育予算や事業についての資料を拝見いたしまして、これほど多くの事業があり、これらによって子ども達の日常や教育が支えられているということを実感いたしました。御殿場市には、教育に対して幅広くご対応いただいていることに深く感謝いたします。

先ほどもお話が出ましたが、支援を必要とする児童生徒が年々増加していることに伴いまして、学校教育充実事業や発達障害児支援事業に多くの支援員を配置して頂いていることがわかりました。

昨日の教育委員会で議題となりましたが、特別支援学級の新設や、中学校に通級指導教室の新設もあるということで、今年度は御殿場市で知的クラス・情緒クラスあわせて193名の児童生徒が特別支援学級に在籍しているとお聞きしました。また、通常学級で支援を要する児童生徒は、全体の12%近く在籍しているとのことでした。

委員もおっしゃっていましたが、通常学級に在籍する支援を要する児童生徒の対応には、担任以外にも支援員の存在が不可欠だと思います。

資料にもあったのですが、現在御殿場市では小学校全10校と、高根中学校を除く中学校5校に、あわせて15名の支援員を配置し対応頂いております。

ここで除かれてしまった高根中学校に関しましてお話をすると、高根中学校には現在特別支援学級がありません。小学校で特別支援学級に在籍していた児童は特別支援学校へ進学するか学区外の中学校の支援学級へ行くか、中には別の学区の中学に行くのは嫌だということで通常学級に籍を置かれている生徒さんもいるようです。

高根に限った話になってしまいますのですが、そういった生徒さんは支援員の配置がないことで、どうしても担任の先生ではサポートしきれない面が出てきてしまうようです。

規模の小さい学校ですので、支援学級や通級指導教室の開設は難しいかもしれませんが、少なからず支援を必要としている生徒がいるという現状がある以上、学級はなくとも支援員の配置をお願いしたいところであります。以上です。

ありがとうございました。

高根中学校については、良くも悪くも効率面を考慮しなくてはならないところがあって、もちろん支援員を配置できれば良いと思うのですが、高根に限らず印野はもちろん、他の地区も小学校はそうなのですが、御殿場小とか南小などの規模が大きい所は少し色合いが違うと思うのですが、私が高根に行って御殿場が本当にいいなと感じ

るのは、印野小もそうなのですが、印野小学校は運動会を地区の運動会と一緒にやる
ことができるのが、こんなに幸せなことではないかと思います。

様々な事をその地区でやるのはすごく良いことで、高根は特に小中学校で人が変わ
りません。転校がなければ小学校一年生から、下手をすれば保育園から一緒に、しか
も中学校になった時にクラス替えがほとんどない点が凄いなと思います。

私が高根小学校に何度か行って、教室で一緒に給食を食べた時に感じたのは、もう
それぞれがみんなを知っております。当たり前ですが。

何年も一緒にいて、その後の絆も非常に強く、そのことは財産で、別にだからそこ
に押し付ける訳ではないのですが、ある意味子ども達が支援員になってくれていると
いうのも、高根の本当に良いところで、だからといって支援員を配置しないという意
味ではなく、その良さが他にはないかけがえのないもので、本当に高根の凄さを感じ
ます。

地区全体が一つになっているというのはすごく良いことだと思います。決して予算
がないとの理由だけではなく、そのような側面もあるということもご認識頂ければと
思います。当然高根にも財産区があるので、声を上げれば考えてくれるとは思いま
すけれども。

本当に良い学校では、子ども達が支えあっていることをひしひしと感ずるので、環
境に甘えるという意味ではなく、そこはどうかかなと私は考えておりました。

教育長

杉山委員の言われるとおり、本当に特別な支援を要するお子さんはどんどん増加し
ています。予想以上の増加率でした。

特別支援学級の開設については昔ならかなり厳しい条件がついていましたが、増加
傾向にあるので、県の方針で特別支援の開設について緩和しております。高根につ
いては状況をみながら検討していくということを考えております。

市長

ありがとうございました。まだ時間もあるようなので、サックス等を含めて何かあ
れば大西委員よりお願いします。

大西委員

私は芸術というか音楽が好きなのですが、何か貢献できればなと思ってサックス教
室開いたりしております。

このような環境でコロナが出てくると、非常に委縮してしまって、せっかく練習に励んで成果を出したいと思っても、皆さま発表する場がありません。

舞踊にしてもそうですし演劇にしてもそうですし、様々な芸術関係の方々が非常に落胆しています。

今回第三波ということで、来年度がどうなるかわからない不安があります。そのような中で、私共は屋外で活動をしています。室内、ホールを使うとどうしても密密ということで拒否されてしまいます。野外が一番良いのではというのがあります。

子ども達が地域でやる太鼓も、室内より外の方が大きい声が出せるし、のびのびできるということがあって、これからどのような形になるかわかりませんが、いずれにしても、御殿場市には野外ステージが基本ありません。

あれば活用できると思うのですが、今は、自分たちでステージを作るところからスタートとしている状況です。

人が入ってものびのびできる屋外ステージや、ドライブシアターのような、各自が駐車場でマイカーの中に入って通信機器などを使って見たり聞いたりするというような方向にイベントも変わっていくのではないかと思います。むしろ、変えた方が良いのではないかと。

そうすると三密云々と言われなくて済みます。このままでは失望感しかありません。

スポーツなどは外でやっているので問題は少ないイメージですが、文化芸術関係は、どうしても屋内でやる、ホールでやるとなってしまいます。

そういうのも考えていかないと with コロナにはなかなかかならないのではないかとひしひしと感じております。

今度 11 月 28 日に三島市の楽寿園で、屋外の演奏をするのですが、そういったものを通じて一つずつ課題を確認していった上で、今後屋外化を進めていけば、子ども達ものびのびと様々なことに挑戦できるのではないかなと思いました。以上です。

市長

ありがとうございました。

実は樹空の森は、委員のおっしゃる施設に近いので、上手な活用ができるかもしれません。ただ、寒い季節は考えないといけないかもしれません。

いずれにしても、様々な文化活動の表現方法や工夫ができれば、ドライブシアターで発表する機会を設けることが主流になっていくかもしれません。ありがとうございました。

さて、来年度に向けて、予算の方もしっかり進めてまいります。

ただ、国との協議の中で当然やっていくとして、税収が減収となることは避けられないので、いろんな面で制約があると思います。ただ、御殿場市は財政が厳しいので

はなく、要は予算を立てるのが厳しいだけです。それだけの行政サービスをしていること裏返しなのですが、何とか歯を食いしばっていきたいと思います。

高いレベルの行政サービスを続けるための予算編成が大変ということに関しまして、その辺は身の丈に合った形に少しずつは下げていかなければいけないところもあります。

ただ、教育については人を育てる、育むことというのは御殿場市にとって本当に大事なことだと思いますので、そういった意味で、都市のつくりかたといいますか、世界中から富士山に観光だけではなく環境も含めて人が集まってくるような街づくりが必要で、環境省の誘致は一つの象徴ではあるのですが、環境省を誘致すれば良いということではなくて、企業であったり研究機関であったりとか、そういった教育文化で誇れるものがあることで、子ども達が将来的に誇れる街、誇りをもって学べる街にしていくことが我々の使命であると思っておりますので、今後とも引き続き教育委員会の皆様にはご支援いただきますことをお願い申し上げまして終わりにさせていただきたいと思います。

5 閉会

教育総務課長

ありがとうございました。

本日委員の皆さま方からいただいたご意見や、今後の活動に対してのご理解につきまして本当に有難いことと思います。

今回の総合教育会議を踏まえた上で、予算化に向けた市長査定に臨むことになると思いますのでご協力いただけたらと思います。

それでは本日の協議につきましては以上となります。

市長、教育委員長、そして教育委員の皆様、本日は本当にお疲れ様でした。

長時間にわたりまして、ありがとうございました。

以上をもちまして今年度第二回総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

午後3時00分閉会